

おはようございます。桜樹祭からの長い2学期も終わろうとしています。皆さんにとって2学期はどのような日々だったでしょうか。

今日は、みなさんに2つの話をします。一つは皆さんの人権に関すること、もう一つは自分が20年以上前に出会った生徒の話です。

最初是人権に関する話です。4月にもお伝えしたとおり、みなさんの体や心は、みなさんそれぞれ、自分自身だけのものです。叩かれる、蹴られる、突き飛ばされるなどの肉体的に苦痛を感じるような行為、くり返し傷つく言葉を言われる、机を蹴られるなどの精神的に苦痛を感じる行為などの暴力にさらされることは、どんな理由があっても、誰であっても、決して許されるものではありません。あってはいけないことなのですが、学校の先生やその他の人たちが、生徒のみなさんに対して、指導の際に、叩いたり、蹴ったりする等の肉体的な苦痛を与える行為は、体罰といって禁止されています。肉体的な苦痛でなくても、繰り返し暴言や心を傷つける言葉を言ったり、机を蹴ったりして威圧する等、精神的な苦痛を与えることも不適切な行為になります。

また、相手が嫌がっているのに、体を触ったり、服で隠れている部分をのぞこうしたり、性的な言葉を言ったり、LINEやメールで性的な言葉を送ったりする等、性的な言葉や行動で、人を傷つけることを、性暴力と言います。性暴力も、どんな理由があっても、誰であっても、決して許されるものではありません。

もし、自分が体罰や性暴力の被害に遭いそうになったら、または被害に遭ってしまったら、一人で抱え込んだり悩んだりしないで、家族や先生、養護教諭、スクールカウンセラー等の信頼できる大人に知らせてください。性暴力を受けている相手が学校にいる先生だった場合や、体罰のことを学校に話にくい場合には、みなさんが学校以外にも、話せる場所をつくっています。学校の先生や大人にも話にくい場合は、1学期の最初に配った、相談シートを再度配りますので、この用紙に書かれているメールアドレスやQRコードで読み取った先の電話番号に連絡すると、体罰や性暴力に関する話を聞いてくれて、みなさんのことを助けてくれます。また、用紙に話したいことを書いて、糊付けをすれば、切手無しでも郵送で送ることができますし、インターネットからも回答が可能です。「学校生活を楽しくすごすために」という資料を配りますので、その資料に載っている電話番号に連絡して、相談することもできます。自分が体罰や性暴力を受けていなくても、友だちが体罰や性暴力を受けていると思ったときも、迷わず知らせてください。

校長先生も先生たちも、生徒のみなさんの心と体を大切に守りたいと思っています。そのためにも、ぜひ一人で悩まないで、知らせてください。

次の話は、私が今から20年以上前に教えていた生徒の話です。

これは、今でいう英語科の論理表現のような授業で教えていたときのことです。この生徒は、授業でわからなかったり、疑問にもったりしたことを徹底的に質問してくる生徒でした。例えば、John is as tall as I am.の前のasと後ろのasがあるが、前のasだけを単独で用いる例文はどのようなものか？というマニアックなレベルの質問を持ってきます。この二つのasは前が副詞で後ろが接続詞です。意味は前が「同じくらい」、後ろは「SがVであるのと同じように」という意味で、合体して「～とおなじくらい・・・」という構文を作っていますが、前のasだけの例文はすぐには思いつきませんでした。

この生徒は毎回授業後には必ず質問してくるので、こちらは質問されないように一生懸命に授業準備をせざるを得ません。が、彼女の質問はこちらの予想どおりではないことも多く、恥ずかしい話ですが、答えられないから次回までに調べておく、と終わらせたこともありました。

この生徒のおかげで、膨大な予習が必要になりましたが、答えられないと信用を失いそうだったので、徹底的に予習をしました。すると、今まで知らなかった英語を使う人たちの英語に関するとらえ方、簡単に言うと「英文法」の仕組みがたぐさわかるようになりました。教員になってすでに15年以上も経過していましたが、こんなことも知らないで英語の教員を名乗っていたのか、と落ち込むほどでした。

今、振り返ると、自分が英語科の教員としての技量を最も鍛えぬいてくれたのは、先輩の先生たちからの教えや何かの参考書、研修会への参加だけではなく、このような生徒との出会いでした。この生徒が聞いてくる質問に答えられるように準備しておかないと、信用されなくなるぞ、という危機感でやっていたことが、いつしか自分の力になっていきました。

さて、皆さんも日々の授業で、教科担当者の技量を一番近くで一番鋭い感覚で評価しているはずですよ。先生たちは少なくとも

人生のキャリアは皆さんより長いですが、その技術を向上させたり、生かしたりするのは皆さんの存在です。逆に、このクラスで授業をやるのは、この程度の準備さえしておけばいいだろう、と先生たちから思われたら、どうでしょうか。授業は先生が一人で作るものではありません。この先生の授業は寝ていても注意されないから安心だ、という先生に対する品定めは、翻って皆さんには決してプラスにならない、先生からの品定めにもなってしまうことを覚えておくの良いかもしれません。

年末は1年間を振り返り、新しい年に思いを馳せるときでもあります。

1, 2年生は先ほどの話の通り、授業を作る役割が自分たちにもあるように、今まで当たり前だと思っていたことを違う視点から見たり、思ったことを相手に伝える勇気を持ったりすることを意識してもらえたら、と思います。授業で分からなかったら遠慮せずに質問すればいいし、授業のやり方についても、こういうふうに改善してほしい、というメッセージを伝えてもいいと思います。来年に向けて当事者として小金井北高校にかかわってほしいと願っています。

3年生はいよいよ受験シーズンを迎えます。授業が終わっても、卒業式までは、本校の施設を利用したり、先生たちと正面きっての真剣勝負ともいえる、過去問の添削や、記述問題の指導を求めたりしてもらえれば、と思います。3年間一緒に勉強して来た仲間の顔を見て、慣れた教室で最後の準備に向かっていきましょう。

こうしてこのメンバーであうのは次回の始業式が最後となります。1月に全員が同じようにここで顔を合わせられるよう、安全安心な年末年始を送ってください。私からの話は以上です。

次の話は、私が今から20年以上前に教えていた生徒の話を紹介します。

これは、今でいう英語科の論理表現のような授業で教えていたときのことです。この生徒は、授業でわからなかったり、疑問にもったりしたことを徹底的に質問してくる生徒でした。例えば、John is as tall as I am.の前のasと後ろのasがあるが、前のasだけを単独で用いる例文はどのようなものか？というマニアックなレベルの質問でした。この二つのasは前が副詞で後ろが接続詞です。意味は前が「同じくらい」、後ろは「SがVであるのと同じように」という意味で、合体して「～とおなじくらい・・・」という構文を作っています。

この生徒は毎回授業後には必ず質問してくるので、こちらは質問されないように一生懸命に授業準備をせざるを得ません。が、彼女の質問はこちらの予想どおりではないことも多く、恥ずかしい話ですが、答えられないから次回までに調べておく、と終わらせたこともありました。

彼女のおかげで、膨大な予習が必要になりましたが、答えられないと信用を失いそうだったので、徹底的に予習をしました。すると、今まで知らなかった英語を使う人たちの英語に関するとらえ方、簡単に言うと「英文法」の仕組みがたぶんわかるようになりました。教員になってすでに15年以上も経過していましたが、こんなことも知らないで英語の教員を名乗っていたのか、と落ち込むほどでした。

今、振り返ると、自分が英語科の教員としての技量を最も鍛えぬいてくれたのは、先輩の先生たちからの教えや何かの参考書、研修会への参加だけではなく、このような生徒との出会いでした。この生徒が聞いてくる質問に答えられるように準備しておかないと、信用されなくなるぞ、という危機感でやっていたことが、いつしか自分の力になっていきました。

さて、皆さんも日々の授業で、教科担当者の技量を一番近くで一番鋭い感覚で評価しているはずですが、先生たちは少なくとも人生のキャリアは皆さんより長いですが、その技術を向上させたり、生かしたりするのは皆さんの存在です。逆に、このクラスで授業をやるのは、この程度の準備さえしておけばいいだろう、と先生たちから思われたら、どうでしょうか。授業は先生が一人で作るものではありません。この先生の授業は寝ていても注意されないから安心だ、という先生に対する品定めは、翻って皆さんには決してプラスにならない、先生からの品定めにもなってしまうことを覚えておくの良いかもしれません。

年末は1年間を振り返り、新しい年に思いを馳せるときでもあります。

1, 2年生は先ほどの話の通り、授業を作る役割が自分たちにもあるように、今まで当たり前だと思っていたことを違う視点から見たり、思ったことを相手に伝える勇気を持つことを意識したりしてもらえたら、と思います。授業で分からなかったら遠慮せずに質問すればいいし、授業のやり方についても、こういうふうに改善してほしい、というメッセージを伝えてもいいと思います。来年に向けて当事者として小金井北高校にかかわってほしいと願っています。

3年生はいよいよ受験シーズンを迎えます。授業が終わっても、卒業式までは、本校の施設を利用したり、先生たちと正面きっての真剣勝負ともいえる、過去問の添削や、記述問題の指導を求めたりしてもらえれば、と思います。3年間一緒に勉強して来た

仲間の顔を見て、慣れた教室で最後の準備に向かっていきましょう。

こうしてこのメンバーであうのは次回の始業式が最後となります。1月に全員が同じようにここで顔を合わせられるよう、安全安心な年末年始を送ってください。